

研究 7月12日（月） NO. 4

研究主任（道徳教育推進教師）



7月も半ばを迎えました。成績の締めも終わり、あとは、夏休みを待つばかりといったところでしょうか。

1学期間皆さんがお元気で過ごされたことが何よりです。夏休みは、いろいろな研修が入っています。研修で力をつけつつ、リフレッシュもして心に充電もしてください。

さて、今回は、第5回校内研修で古本先生にご指導して頂いたことをまとめてみました。参考にして頂ければありがたいです。



第5回校内研修での学び

【第5回校内研修

3・4年生 『貝がら』 2－（3）信頼友情 文溪堂】

指導講話：古本 由利指導主事先生

〈 キーワード ： 児童の実態 〉

★発問

- まずは**資料分析**が一番。
資料を選ぶ際は、児童の実態にあっているかを考えること。（児童が資料に入りやすいものを選ぶ）
- 発問は、児童の思考や話し合いを深める重要なカギであり、問題意識・疑問・多様な感じ方・考え方を引き出すものである。
- 児童の意識の流れを予想し、それに沿った発問をつくる。
考える必然性や切実感のある発問をつくる。
自由な思考を促す発問をつくる。
このようなことを意識しながら授業（発問）を作っていく。
- 発問の構成：中心発問・基本発問・補助発問（切り返し・揺さぶりを入れる）

★少人数における道徳の時間

- 全校道徳の取組をしてみてもどうか。学び合いが可能となる。学校規模が全校道徳に適している。その際、資料は下の学年に合わせる。

★役割演技

- 役割演技をさせる場合『共感できる人物』『怒りを感じる人物』にならせる。このどちらかに絞りこんで、見る人に質問をする。
- 観察時のポイント
(これを行う時は教師はTTであることが望ましい。一人の教師が役割演技時に切り返し等を行い、もう一人の教師が第三者として冷静に児童を見ることができると)
演技者がとる言動については、
 - ア 言語
 - イ 非言語 の2つがある。アの場合、どのような言葉で言っているか感嘆詞を聞き逃さないことが大切。
イの場合、顔の表情・目の動き・体の動きなど見逃さないことが大切。
もし、無言であったとしても、なぜ無言であったのかそれを問うことで深まらせることができる。
- 観察者は、傍観させるのではなく、「もし自分だったら・・・。」を発言させる。
- ◎ 役割演技の良さは、会話が進むため、児童が構えなくてすみ、本音が出させやすいことである。また、教師も自然な切り返しが生まれることである。
ポイントとしては、教師が、一方通行で終わらせないために、切り返しをすることが重要になってくる。



夏休みには、道徳の理論研修と2学期の指導案の作成・授業カンファレンスを計画しています。
お楽しみに！